

妻興

中京の妻をなぐはせ喜の如

無曲坊 驢車

あまのこゝろをなぐはせ喜の如

帯川齋 停車

牛馬のやけいへ矢背に雪を

洛 其成

あまのこゝろをなぐはせ喜の如

月居

鳥子六句

さしづめ山下水乃けらる

蘭更

風から吹く葉の跡を

其成

梅さけし袴又酒乃乗して

無曲

次高入もねかきうらむ

帯川

子坪のあをいねも月の秋

月居

牛のふらふら里に

一峰

寛政五年春

